



特 集 まちを元気に、地域を一つに
～Jリーグと商工会議所の取り組み～

スポーツで
触れ合いの輪を広げる

——Jリーグには「スポーツで、もって、幸せな国へ。」という百年構想があります。各クラブも、スポーツ文化の振興を図りながら地域の活性化に貢献することを意識して活動されていますね。

大東 スローガンの原点はドイツにあります。東京五輪を4年後に控えた1960年、サッカー日本代表チームは、デュイスブルクで強化合宿を行いました。その施設では、美しい芝生の上で子どもたちがボールを追い掛けていたり、ア



大東和美 (おおひかし・かずみ)
Jリーグ チェアマン
昭和23年、神戸市生まれ。早稲田大学ラグビー部時代に大学選手権2回、日本選手権1回優勝。住友金属工業入社後は母校のラグビー部監督を務め、大学日本一に導く。九州支社長などを務めた後、平成17年に鹿島アントラーズ専務取締役、18年代表取締役社長。20年にJリーグ理事、22年チェアマンに就任

——百年構想の中にある「スポーツを通して触れ合いの輪を広げること」が地域の「コミュニティの活性化につながると思いますが、これまでどんな手応えを感じられていますか。

大東 この20年を振り返ると、各地域に、それまでにはなかったコミュニティがいろいろ育っていますし、地域の人々がJリーグの試合を観戦し共有することで、世代を超えたコミュニケーションの輪が広がっているのではないかと思います。いつの時代も、家庭で、学校

「スポーツで地域を元気にするのが使命です」

1993年にJリーグが開幕して20年。この間、加盟クラブ数は40に増え、日本サッカーの水準向上に貢献してきた。また、サッカー以外のさまざまな活動にも力を入れ、地域の活性化に寄与している。その理念と、これから進んで行く道について、大東和美チェアマンに聞いた。

リーナで車いすの人たちが球技を楽しんだりしていました。老若男女に関係なく、自分のレベルに応じたスポーツを楽しむことのできる、地域における交流の広場になっていたんですね。

Jリーグも、試合を見てもらうだけでなく、ドイツのような地域の人々の交流の場を各地につくる

ことを目指して、「誰もが気楽にスポーツを楽しめる環境を実現し、地域に根差したスポーツクラブを核とするスポーツ文化の振興に取り組む」という考えの下、百年構想を掲げました。

具体的には、「あなたの町に、緑の芝生におおわれた広場やスポーツ施設をつくること」「サッカーに

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ (Jリーグ)
チェアマン 大東 和美

限らず、あなたがやりたい競技を楽しめるスポーツクラブをつくること」「観る」「する」「参加する」。スポーツを通して世代を超えた触れ合いの輪を広げること」の3つを核に、スポーツによって新しいコミュニティを育て、地域の絆を育みながら、「日本をもっと幸せな国にしていこう」「地域スポーツを支えているまちを元気にしよう」という思いを実現するため、活動してきました。



特集

まちを元気に、地域を一つに



～Jリーグと商工会議所の取り組み～

地域の名を冠するスポーツチームを育て活用することで、そのまちは元気に活力が生まれる。実際、Jリーグクラブのホームタウンでは、スポーツを軸にした活動を通じてさまざまな成果を上げてきた。今号は、今年20周年を迎えたJリーグと商工会議所が一体となって地域活性化に取り組む姿を追ってみた。



取材：清水 高
並井尚紀
山田清志
関根利子